



国内離島空港初 宮古空港の空港内作業車両で バイオディーゼル燃料「B100燃料」の導入を開始

JALは、CO₂排出量削減への取り組みの一環として、2024年8月19日より、離島空港では初となるバイオディーゼル燃料濃度100%の「B100燃料」を宮古空港配備の空港内作業車両であるトーイングトラクター^(*)に使用を開始します。^(*)空港制限区域内にて航空貨物やお客さまの手荷物の運送用コンテナを牽引する車両

今回使用する「バイオディーゼル燃料」は宮古島内の飲食店や家庭などから排出される植物由来の廃食用油が原料となり、島内の廃食用油の回収及び燃料製造は、株式会社アトラス(沖縄県糸満市)が実施します。

食用油の原料となる植物が成長する過程でCO₂の吸収を行うため、ライフサイクル全体でのCO₂排出量を実質ゼロにすることが可能となり、「バイオディーゼル燃料」を使用することで通常の軽油を使用した場合と比べて、1リットル当たり2.62kgのCO₂排出量削減の効果が見込めます。

島内の貴重な資源を有効活用することで地産地消の循環型エネルギーを実現します。

CO₂循環イメージ図





【「エコアイランド宮古島^(※1)」ならびに「JTA結∞アクション^(※2)」と連携してエコエアポート化の取り組みを推進します】

JALはこの取り組みを通じて、ゼロカーボンシティを掲げる宮古島市とも連携・協働して島の環境を守り、島の資源を大切に使い、「エコアイランド宮古島におけるCO2排出実質ゼロ」実現のために、持続可能なエネルギー利用によるCO2排出削減に取り組んでまいります。

また、沖縄地区JALグループのSDGsの活動として日本トランスオーシャン航空が、美ら島の素晴らしい光景がいつまでも続くように、子供たちの笑顔を未来につなぐための想いをこめて「結∞ACTION」を制定し、各種の取り組みを進めております。

宮古空港においても「エコアイランド宮古島」、「JTA結∞アクション」の取り組みと連携することで、沖縄県が掲げる「クリーンエネルギー・イニシアティブ」のアクションプランの着実な実施に貢献し、より環境負荷の少ない空港作りを加速してまいります。



【エコアイランド宮古島】



【JTA結∞アクション】

(※1)エコアイランド宮古島: <https://eco-island.jp/>

(※2)JTA結∞アクション: <https://jta-okinawa.com/sdgs/>

【運用開始日】 2024年8月19日(月)～

【対象空港】 宮古空港(沖縄県宮古島市)

【対象車両】 宮古空港配備 JALトーイングトラクター 2台

【内容】 バイオディーゼル燃料濃度100%の「B100燃料」をトーイングトラクターに使用

以上

